



JA3AER



\*\*\* 国際電気通信連合 (ITU) の切手 (その1) \*\*\*

JA3AER 荒川泰蔵



## 1. まえがき

アマチュア無線家にはお馴染みのITUですが、今では誰もが放送の受信だけでなく、携帯やインターネットなどの日常的に使用している電気通信の、国際的な秩序のために電波の国際的な分配や混信防止のための調整、標準化やルール作りとその管理をする国際的な組織であることは、一般の人達にはあまり知られていないようです。河内長野市の文化祭の一環として、11月に開かれた公益社団法人日本郵趣協会(JPS)登録河内長野支部主催の「切手展」に「国際電気通信連合とその100周年記念(1965年)」と題した4フレーム64リーフの作品を出展したのですが、来客に説明しながらそのように感じました(写真1)。出展した作品は次のURLでご覧いただけますが、それ以外の切手や初日カバー(FDC)なども、コレクションからピックアップして紹介させて頂きたいと思います。

<http://spsshyukai.sakura.ne.jp/spc club/BlogSyumi/data/151121arakawa.pdf>



写真1

## 2. 作品はITU創設100周年記念の切手が中心

作品は今から50年前の100周年記念切手がメインですが、今年(2015年)はITU創設150周年に当たりますので、その記念切手などを少し紹介した上で、ITUの歴史や組織、会議等に関する切手などを紹介したいと思います。そして、メインである100周年の記念切手のコレクションを紹介します。一つの記念でこれほど多くの国や地域が同時期に切手を発行した例は他にないと思われ、今回の作品4フレームの内の75%に当たる3フレームはこれらの切手で占めています。展示作品のレイアウトと関係なく、珍カントリーも含まれる切手でのDXCCリストに従っての紹介を試みたいと思います。50年も前のことですので、国名が変わっていたり、消滅カントリーが出てくるかも知れません。

### 3. 今年2015年は国際電気通信連合(ITU) 150周年です

正直なところ、7月末にスイスのアマチュア無線家HB9DKZ, Hansさんから150周年を記念した葉書(写真2の左)を受け取るまで気付かなかったのですが、その直後の8月に、世界ジャンボリーに参加すると訪日したマレーシアのアマチュア無線家9W2PD, Rabinさんがお土産にくれた初日カバー(写真2の右)を見て、マレーシアが3種の切手を発行したのを知りました。



写真2

その後「郵趣」誌のカタログページに、この150周年の記念切手がぼつぼつ紹介され始めましたが、タイのHS1ASC, Thidaさんがタイの切手を10枚のシートごと送ってくれました(写真3の左)。記念日は5月17日ですから、発行を計画した国は既に発行済みとは思いますが、切手商を通じて郵趣家の手に入るには時間がかかります。我が国では残念ながら発行されませんが、発行国は限られていて20ヶ国前後ではないかと思われます。南米(ブラジルとウルグアイ)の切手の例を示します(写真3の右)。



写真3

#### 4. ITU創設125周年記念切手

ついでにと、1965年の100周年から今年の150周年の間である、1990年に125周年切手が発行されていないものかと、ストックブックを探してみますとブルガリアの切手が出てきました(写真4)。他にもスイスのITU本部が作成したと思われる記念消印付きの記念カバー2種が見つかりました。記念切手が発行されなくても、記念消印が使用されることがあり、これも立派な郵趣品でコレクションの対象になります(写真5)。



写真4



写真5

#### 5. ITUの歴史、及び現在の組織と加盟国

ITUは、1865年5月17日にパリで創設された万国電信連合と、1906年にベルリンで創設された国際無線電信連合が、1932年に合併した国際機関で、1947年に国連の専門機関となりました。1956年に国連からITUの切手2種の切手が発行されています(写真6)。写真は初日カバー(FDC)ですが、1956年2月17日の初日印が押されています。筆者のJA3AER開局の前年ですが、この時代には携帯やインターネットは勿論なく、電気通信と言えば電話と電線で、切手の図案もそれをあしらっています。左の3セント切手がITUであるのに対し、右の8セント切手がUITとあるのは英語とフランス語の違いです。両切手の周囲には英語、中国語、フランス語、ロシア語、スペイン語の5ヶ国語で、「国際連合」と書かれています。



写真6

ITUの組織は下図の通りで、最高機関は「全権委員会」です(写真7)。現在の加盟国は、ほぼ全ての加盟国にバチカンを加えた193ヶ国で、本部はスイスのジュネーブにあります。

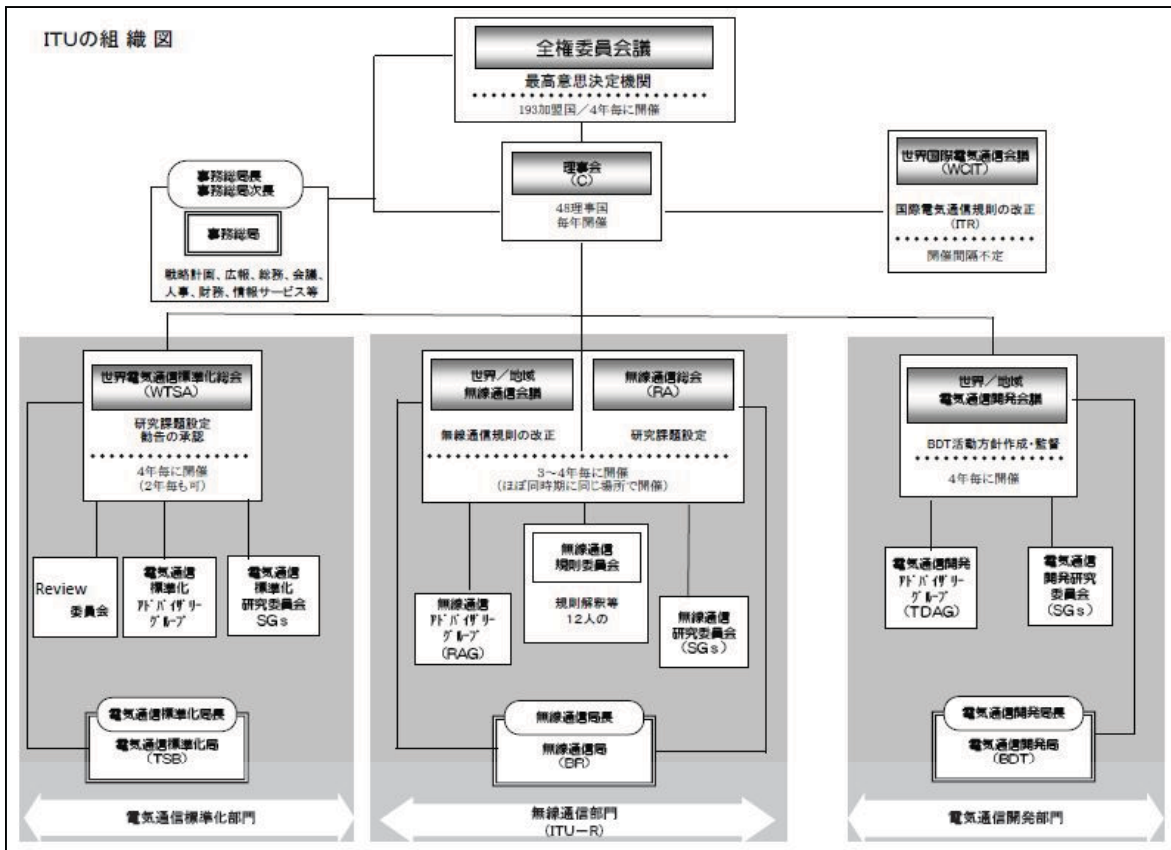


写真7(ウキペディアより)

<次号に続く>





## JA3AER



\*\*\* 国際電気通信連合 (ITU) の切手 (その2) \*\*\*

JA3AER 荒川泰蔵



### 1. 日本のITUへの加盟

現在のITU加盟国は193ヶ国ですが、我が国は1879年に国際電気通信連合の前身である万国通信連合に加盟し、1954年10月13日に国際電気通信連合 (ITU) 加盟75周年記念切手2種を発行しています(写真1)。5円切手には昔の電信機が描かれ、周囲にはさん孔テープを含めた通信符号で「国際通信連合75周年記念」と書かれています。上部の和文モール符号は「コクサイ」と読めますね。10円切手の図案はスイスのベルンにあるITUの記念碑を描いています。この記念碑はITU 50周年を記念して1915年に作られる予定が、第一次世界大戦で遅れて1922年に完成したそうです。



写真1

このITU加盟75周年記念切手の初日カバー (FDC) を紹介します。横浜郵便局の欧文日付印で消された珍しいものです。10円切手に描かれたITUの記念碑は見たことがありませんが、ITUのホームページに写真が掲載されていました(写真2)。

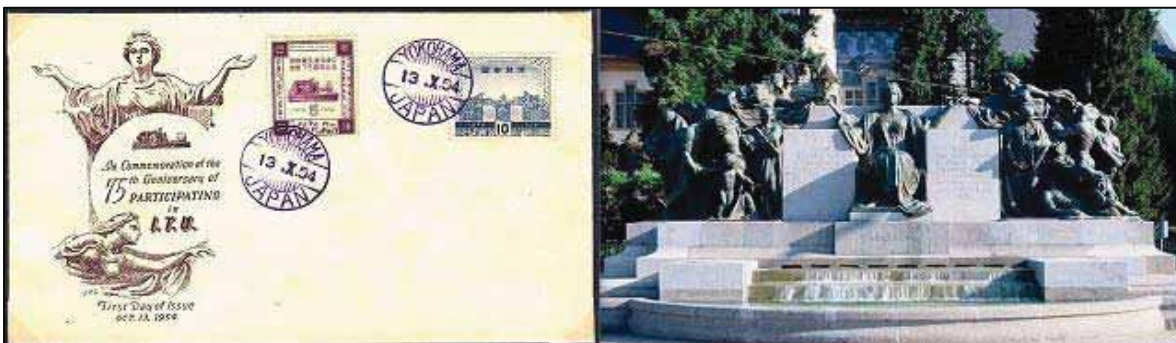


写真2 左: 欧文日付印の初日カバー、右: ITU記念碑 (ITUのホームページより)。



それから25年後の、1979年10月13日にはITU加盟100年の記念切手1種が発行されました(この25年の間に「周年」という言葉が「年」に変わっています)。図案はITUのロゴからITUの文字を飛び出させ、光の3原色を使った3本の光ファイバーを図案化しています(写真3)。1980年代に光ファイバー通信が普及し始めますが、切手はそれを先取りしていたようです。



写真3 左:みほん切手、右:20枚のシートの上の4枚。

このITU加盟100年記念切手の初日カバー(FDC)と郵政省制作の切手発行案内はがきを紹介します(写真4)。FDCにはITUのロゴをデザインした、東京の芝郵便局の特殊通信日付印(記念印)と、和文日付印が押されています。この種の記念印は記念切手に関係のある郵便局と全国の中央郵便局で、記念切手の発行から1週間に限って使用されるものです。また、和文日付印には日付の下の楕円部分に鳩のマークが入っています。これは通称「ハト印」と呼ばれ、切手の発行日に限って使用されるものです。また、発行案内はがきには切手を貼って東京渋谷神宮前郵便局の和文日付印が押されています。日付は初日ですが「ハト印」ではありません。「ハト印」も記念印と同様、指定局と各地の中央郵便局に限って使用されるので、その他の郵便局で記念に消印する場合は普通の通信日付印になります。



写真4 左:FDC、右:切手発行案内はがき

なんだか郵趣の解説になってしまいましたが、ついでに、この時代に郵政省が記念切手発行の前に配布していた「解説書」を紹介します。この時代に切手を集めておられた方にはお馴染みかも知れませんが、A5版の紙の両面に印刷し、それを2つ折りにしたものです(写真5)。これに切手を貼って記念印を押し、郵趣品にすることも各地で行われました。この例では芝郵便局でなく、大阪(中央)郵便局の記念印です。



写真5

## 2. 韓国のITUへの加盟

韓国は今から64年前の1952年にITUに加盟していて、1962年1月31日にその10年記念の切手1種と、同図案の無目打切手1枚を印刷した小型シートを発行しています(写真6)。

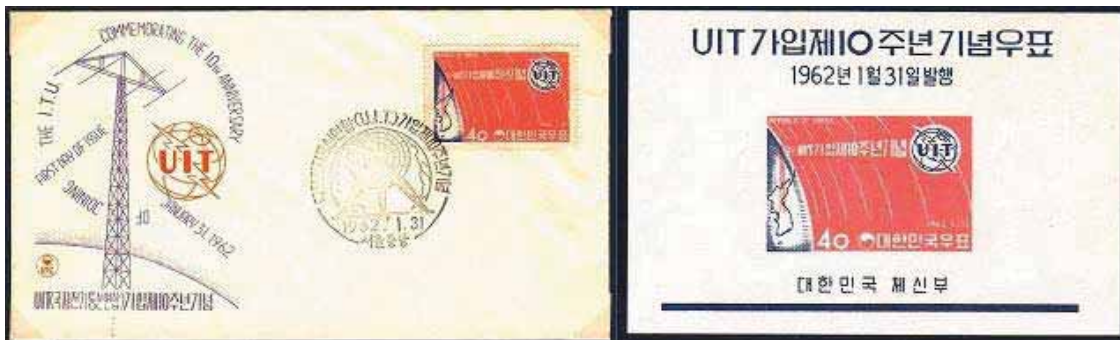


写真6 左:FDC、右:小型シート

それから僅か5年後の1967年1月31日に、ITU加盟15年記念の切手1種と、同図案の無目打切手1枚を印刷した小型シートを発行しています(写真7)。小型シートには消印があり使用済みのものです(日付は発行初日ではありません)。



写真7 左:FDC、右:小型シート

## 3. タイのITUへの加盟

タイは今から131年前の1885年にITUに加盟していて、1985年7月1日にその100年記念の切手1種を発行しています。切手の図案はITUのロゴにタイの国旗をあしらったものです(写真8)。

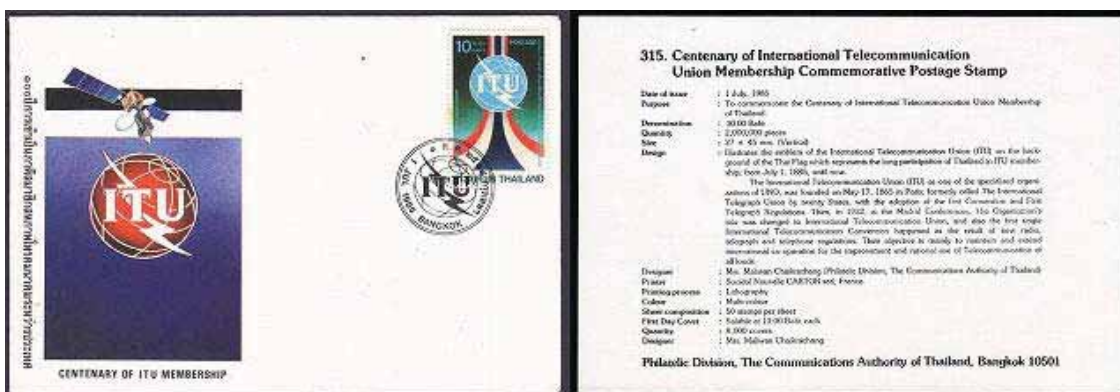


写真8 左:FDC、右:記念切手発行の説明書(FDCに入っていたもの)

<次号に続く>

訂正記事 : 前号(その1)の1項目、まえがき4行目の「公益社団法人・・・」を、「公益財団法人・・・」に訂正します。





## JA3AER



\*\*\* 国際電気通信連合 (ITU) の切手 (その3) \*\*\*

JA3AER 荒川泰蔵



### 1. ITUの事務局

現在のITUの事務局はスイスのジュネーブにあります。フランス語圏でITUはUITになります。国連のスイス事務局が1969年に独自の切手を発行する以前の1958年から、スイスがITUの事務局で使用している特別な切手を発行し、記念切手を含め2003年までに18種の切手が発行されました。切手にはHELVETIAとスイスの国名が書かれており、SCOTTなどの切手カタログには「国連」ではなく「スイス」の切手に分類されています。

順序は逆になりますが、まずその事務局のビルが描かれた切手を紹介します(写真1)。左が1973年8月30日に発行された切手の8枚ブロックです。左手前に高層ビル、その右奥に古いビルが描かれていますが、この高層ビルの完成を記念したものです。写真1の右がその切手の初日カバー(FDC)です。



写真1 左: ITU高層ビル完成記念切手の8枚ブロックと、右: その初日カバー (1973年)。

### 2. ITUビル内にあるアマチュア無線局4U1ITU

この事務局の古い方のビルに、アマチュア無線局4U1ITUがあることは周知の通りです。筆者が1987年に訪問し、運用した時のQSLカードには、ITU HEADQUARTERS, GENEVAとして2つのビルが描かれています(写真2)。その裏面のデータ欄の右下に「TELECOM 87」のロゴがあり、その展示会の案内をしています。このTELECOMはITUの主な行事の一つで、定期的に各地で開かれており、最近では2014年にカタールのドーハ(Doha)で開催されています。

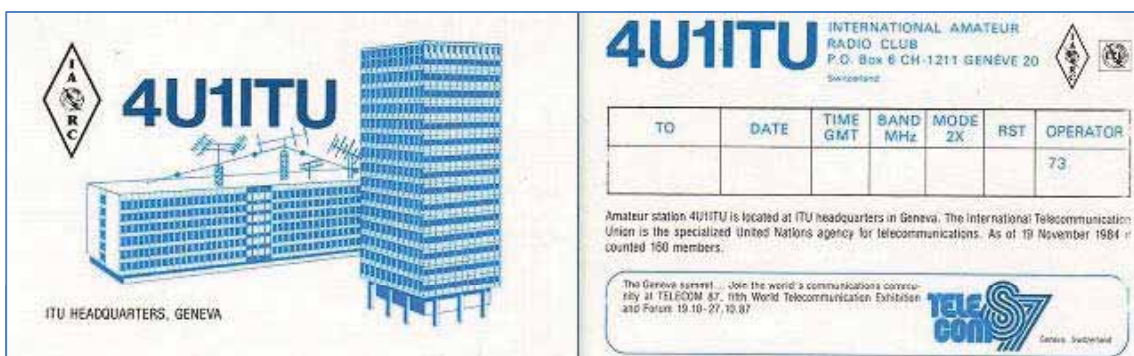


写真2 左: 事務局ビルが描かれたQSLカードと、右: その裏面(1987年)。



### 3. 日本人による4U1ITUの運用

筆者が1987年に4U1ITUを運用できたのは、国連に本部に勤務していた4U1UNの会長、故 HB9RS, Dr. Max deHenselerを通して4U1ITUの会長EA2ADO, Francisco Lafuenteに依頼し、事前に許可を得ていたからです(写真3)。しかし、ここは4U1UNと違って、誰でも一時的な International Amateur Radio Club のメンバーになれば運用できるようで、「日本人による海外運用の記録」としてレポート頂いただけでも、20世紀に次の方々がここから運用しておられます。1965年 JA1DCY, 1971年 JA3DWT, 1979年 JA3UB, 1981年 JA1HBC, 1986年 JE3SOY, 1987年 JH1VRQ, JA1BK, 1988年 JA1SC, 1990年 JA1FY, 1991年 JA9IFF, JE1NWL, 1993年 JH4UYB, JP1NWZ と14人を数えます。



写真3 左:4U1ITUを運用する筆者と、右:その運用許可証(1987年)。

この内JA1FY野田氏が訪れた1990年はITU創設125周年に当たり、5月17日の世界通信の日がある5月には、4U5ITUという特別コールサインで運用されたようで、QSLカードにはITUのロゴと並んで125周年のロゴも印刷されています(写真4)。



写真4 左:4U5ITUのQSLカードと、中央:その時のシャック(1990年)。  
右:その10年前のITU創設115周年記念のQSLカード裏面(1980年)。

### 4. スイスのITU事務局用の普通切手

上記第1項で説明した通り、スイスはITU事務局用の切手を発行しました。その最初が1958年で5c, 10c, 20c, 40c, 60c, 2frの6種の普通切手で、タワーとアンテナをデザインした2種類の図案の色違いで発行しています(写真5の左)。そして、1960年に20c, 30c, 50cの切手が追加されましたが、20cは色調が変わり、30cと50cは新額面でした(写真5の中央と右)。



写真5 左:1959年の全権委員会議、中央:1962年のITUビル竣工、右:1990年のITU創設125周年の記念のカバー

## 5. 国連ジュネーブ事務局の切手とスイスのITU事務局用特殊・記念切手

現在、国連ではニューヨークの国連本部の他、ジュネーブの国連事務所、ウィーンの国連事務所の3ヶ所で、それぞれ切手を発行しており、ジュネーブでは1969年からスタートしています(写真6の左)。しかし、スイスはその後もITU事務局用切手の発行を続け、上記第1項で紹介した1973年IのITUの高層ビル完成記念切手以降も、2003年までに5回にわたり8種の切手を発行しました(写真6の右から写真8まで)。従って、これらの切手が併用されてきたものと思われますが、実遞(実際に郵便に使われた封筒)の入手は難しく、残念ながら、ここに示す私のコレクションは総て初日カバー(FDC)です。



写真6 左:国連ジュネーブ事務局発行切手の一例、1983年発行の世界通信年記念切手のFDC。  
右:スイスのITU事務局用切手として、1976年2月12日に発行されたITUの活動(国際通信、移動体通信、TVやラジオの放送)を、それぞれ図案化した3種の切手のFDC。



写真7 左:光ファイバー・ケーブルを描いた1988年9月13日発行の切手のFDC。  
右:無線通信100年を記念して1994年5月17日に発行された切手のFDC。



写真8 左:1999年3月9日に発行された情報通信の活用(教育、医療)を描いた2種の切手のFDC。  
右:情報社会の世界サミット(Phase1)を記念した2003年9月9日発行の切手のFDC。

<次号に続く>





## JAZAER



\*\*\* 国際電気通信連合 (ITU)の切手 (その4) \*\*\*

JAZAER 荒川泰蔵



### 1. 国際電気通信連合ジュネーブ (スイス) 全権委員会議 (1959年)

国際電気通信連合 (ITU) の最高意思決定機関である全権委員会議は原則4年毎に開かれています。ここに示すカバーは、1959年にスイスのジュネーブで開かれた全権委員会議を記念したもので、スイスのITU事務局用普通切手6種が貼られ、1959年10月14日付の記念印が押されています(写真1)。日本はこの1959年以来連続でITUの理事国を務めています。



写真1 ITUジュネーブ全権委員会議記念カバー(1959年)。

### 2. 国際電気通信連合モントルー (スイス) 全権委員会議 (1965年)

ここに示すカバーは、上記の6年後にスイスのモントルーで開かれた全権委員会議を記念したものです。1965年9月14日にスイスで発行された、ITU 100周年記念切手2種が貼られ、1965年10月14日付の記念印が押されています(写真2)。



写真2 ITUモントルー全権委員会議記念カバー(1965年)。

### 3. 国際電気通信連合トレモリノス(スペイン)全権委員会議(1973年)

1973年には、スペインのトレモリノスで全権委員会議が開かれました。スペインは、それを記念して1973年9月14日に記念切手1種を発行しました(写真3)。



写真3 ITUトレモリノス全権委員会議記念切手(1973年)。

### 4. 国際電気通信連合ニース(フランス)全権委員会議(1989年)

1989年には、フランスのニースで全権委員会議が開かれました。フランスは、それを記念して1989年5月23日に記念切手1種を発行しました。ここに示すのは、その切手を貼って同日付の記念印を押した初日カバーです(写真4)。



写真4 ITUニース全権委員会議記念切手の初日カバー(1989年)。

### 5. 国際電気通信連合 京都(日本)全権委員会議(1994年)

1994年の京都全権委員会議は、9月19日から10月14日まで国立京都国際会議場で開かれました。郵政省はそれを記念して1994年9月19日に記念切手1種を発行しました。ここに示すのは、その切手のシート上部4連切手と、2枚の切手貼って同日付の記念印と初日印を押した初日カバーです(写真5)。



写真5 ITU京都 全権委員会議記念切手と初日カバー(1994年)。



## 6. 国際電気通信連合 釜山 (韓国) 全権委員会議 (2014年)

2014年には、韓国の釜山で全権委員会議が10月20日から11月7日まで開かれ、それに先立つ10月1日に4種の記念切手が発行されました。そのうちの1枚の切手貼って同日付の記念印を押した初日カバーと共に紹介します(写真6)。



写真6 ITU釜山 全権委員会議記念切手と初日カバー(2014年)。

## 7. 第14回国際無線通信諮問委員会 (CCIR) 総会 (1978年)

CCIR 第14回総会は1978年6月7日から23日まで京都国際会議場で開催されました。世界から参加する代表団の中にアマチュア無線家がいればと、JARLは会議場内にアマチュア無線局を設置し、6月12日にレセプションを開催しました。この日の記念カバーは、1977年9月24日発行のアマチュア無線50年記念切手を貼り、小型記念印を押しています(写真7)。

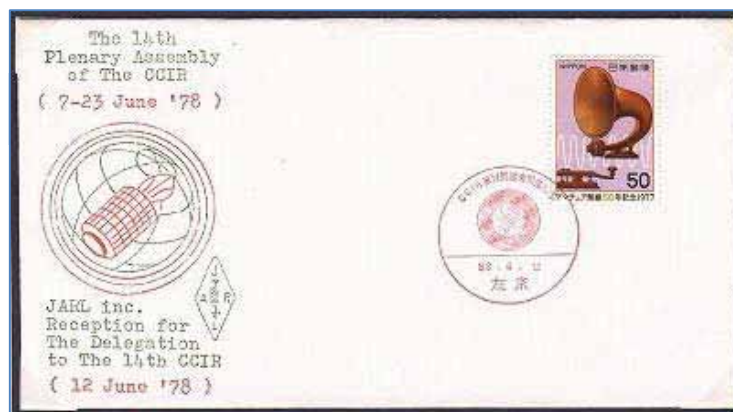


写真7 第14回国際無線通信諮問委員会(CCIR)総会の記念カバー (1978年)。

## 8. 世界情報社会サミット Phase-1 (2003年)

世界情報社会サミットの第1フェーズが2003年12月にスイスのジュネーブで開かれました。スイスはそれに先立つ9月9日に、ITU事務局用の記念切手1種を発行しました。ここに示すのはその初日カバーです(写真8)。

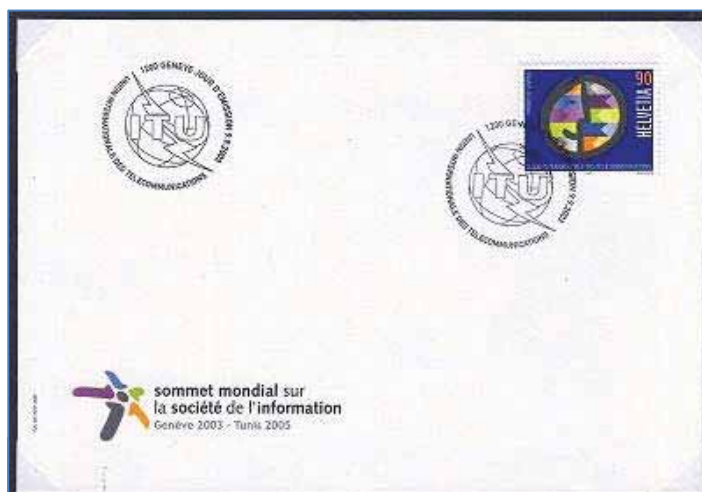


写真8 世界情報社会サミットの記念切手の初日カバー(2003年)。

<次号に続く> JA3AER 荒川さん



## JAZAER



\*\*\* 国際電気通信連合 (ITU)の切手 (その5) \*\*\*

JAZAER 荒川泰蔵



### 1. 国際電気通信連合 (ITU)創設100周年記念切手 (1965年)

このシリーズの5回目で、やっと本題である「ITU100年」の記念切手にたどり着きました。ITU100年は1965年で半世紀も前のことですから、読者の中には良く覚えておられない方もおられると思われますので、先ず日本切手を紹介します(写真1)。写真の左側が未使用切手、右側が「みほん」字入り切手です。日本ではこの時代、切手の発行に先駆けて「みほん」と加刷した切手を各地の郵便局や学校などに配布し、新切手の発行を周知していました。この切手の図案を頭に入れておいて下さい。中央に地球を描き、左側には電柱に碍子を付けて電線を張ったITU創設時代の有線通信の象徴を、右側には1965年当時の各種無線通信アンテナを描いている標準的な図案です。今後紹介する世界各国の切手の図案はこれと同じようなものが多いので、多分ITUが各国に見本として示した図案なのかも知れません。



写真1 ITU100年記念の日本の切手(1965年5月17日発行)。

### 2. 日本のITU100年記念切手の初日カバー1 (全日本郵便切手普及協会版)

ここに示す初日カバー(FDC)は東京中央郵便局1965年(昭和40年)5月17日付の記念印が押されています(写真2)。カシエにはITUのロゴと、縦振り電鍵にモールス信号の印字テープ、それに右上には小さく通信衛星が描かれています。その下の方に「Y.H」とイニシャルのサインがありますが、FDCの説明書には切手の原画作者である、東角井良臣氏が筆者とあります。郵政省の外郭団体である全日本郵便切手普及協会制作のFDCですからうなずけます。



写真2 ITU100年記念切手の初日カバー(全日本郵便切手普及協会版)と、その説明書。



### 3. 日本のITU100年記念切手の初日カバー-2 (NCCカバー版)

このFDCも上記と同じ東京中央郵便局1965年(昭和40年)5月17日付の記念印が押されています(写真3)。NCCは何の略号か知りませんが、NCCカバー版のFDCは現在でも作られているポピュラーなものです。



写真3 ITU100年記念切手の初日カバー(NCC版)と、その説明書。

### 4. 日本のITU100年記念切手の初日カバー-3 (中村浪静堂版)

このFDCも上記と同じ東京中央郵便局1965年(昭和40年)5月17日付の記念印が押されています。この中村浪静堂版のカシエは版画で2種類あります(写真4及び5の左)。カシエにもY.Hのイニシャルがあり、切手の原画作者である東角井良臣氏が筆者です。この種の版画のFDCはその後松屋(株)に移ったのか、現在では松屋版と呼ばれています。



写真4 ITU100年記念切手の初日カバー(中村浪静堂版)と、その説明書。

### 5. 日本のITU100年記念切手の初日カバー-4 (BSB版)

ここに示す2枚のFDCの左側は上記の中村浪静堂版です。右側のFDCの裏側には、BSB (Bunkyo Stamp Brea)のロゴがあるのでBSB版と勝手に名付けました(写真5の右)。上記のNCC版とか松屋版などは、商業的に大量に作られています。FDCは誰でも好きなように作れるので、各地の団体や個人が好みに応じて作っていて、このBSB版もその一つだと思われます。ここでは同じ切手なので、数種類のFDCを紹介しましたが、FDCのコレクターでなければ1枚で十分でしょう。



写真5 ITU100年記念切手の初日カバー(中村浪静堂版と、BSB版)。

## 6. ルクセンブルグからLX1NO, Norbyさんご一家が来訪

ここでちょっと横道にそれさせていただきます。ITU100年記念切手とは全く関係ありませんが、去る4月2日(土)、JP3AYQ真田さん達の案内で、LX1NO, NorbyさんとLX2LX, Manuさん一家5人が、ここ大阪狭山市へ来られました。大阪狭山ラジオクラブ(OSRC)のメンバーの案内でJK3ZCRの無線室を見学して頂いた後、狭山池公園で折から開かれていた「狭山池築造1400年記念 桜まつり～春～」を楽しんで頂き、その時の記念のカバーを作りましたので紹介します、(写真6)。



写真6 LX1NO & LX2LX一家来訪時の写真と、その記念を兼ねた桜まつりの記念カバー(2人のサイン入り)。

## 7. ルクセンブルグの連盟(RL)創設50年と75年の記念切手と初日カバー

ルクセンブルグは過去2回アマチュア無線の切手を発行しています。LN1NO, Norbyさんの話では、RLのメンバーは数十人ぐらいたそうですが、アマチュア無線大国の日本や米国が1回しか発行していないのに、ルクセンブルグでは2回も発行しているところを見ると、社会的な貢献があって高い評価を受けているのでしょう。(写真7及び8)。



写真7 ルクセンブルグの連盟(RL)創設50年記念切手と、その初日カバー(1987年3月9日発行)。



写真8 ルクセンブルグの連盟(RL)創設75年記念切手と、その初日カバー(2012年3月3日発行)。

<次号に続く>

JA3AER 荒川さん





# Members DX Reports



## JA3AER



\*\*\* 国際電気通信連合 (ITU)の切手 (その6) \*\*\*

JA3AER 荒川泰蔵



### 1. 第1地域・ヨーロッパのITU100年記念切手初日カバー (洋形7号タイプ・92mm x 165mm)

今から50年余り前、1965年のITU100年記念には163ヶ国/地域がこれを記念して切手を発行しました。現在ITU加盟国が193ヶ国ですが、この内の約70%に当たる134ヶ国がこれに含まれていて、総数335種類の切手が発行されました。

これらの切手を全て紹介すると1年以上かかりそうですので、私が所有する30種足らずの初日カバー(FDC)のみの紹介にとどめたいと思います。第1地域のヨーロッパから順次紹介させていただきますが、初日カバーに使われる封筒は、我が国を含めて多くが洋形7号です。しかし、ヨーロッパには縦幅が広い洋形2号もよく使われていますので、これを分類して紹介します。では、先ず洋形7号で、先月号で紹介したLX1NO, Norbyさんの国、ルクセンブルグの初日カバーをから順に、切手以外カシエの図案も含めて、お国柄をお楽しみ下さい(写真1~3)。



写真1 ルクセンブルグ 1965年5月17日発行。



写真2 左: チェコスロバキア 1965年7月10日発行、右: デンマーク 1965年5月17日発行。



写真3 左: フランス 1965年5月17日発行、右: イタリア 1965年5月17日発行。



2. 第1地域・ヨーロッパのITU100年記念切手初日カバー(洋形2号タイプ・114mm x 162mm)

続いて洋形2号の封筒を使った初日カバー(FDC)です(写真4~6)。ここではスイス、リヒテンシュタイン、オーストリア、ハンガリー、ドイツのFDCを示しますが、ドイツは当時西ドイツと東ドイツに分かれて別の国でした(写真6)。西ドイツのFDCはカシエのない白封の実遞です。当日カシエ入りの封筒が手に入らなかった人が、手元にあった白封を使ったとすれば、このサイズの封筒が日常的に使われているのでしょう。

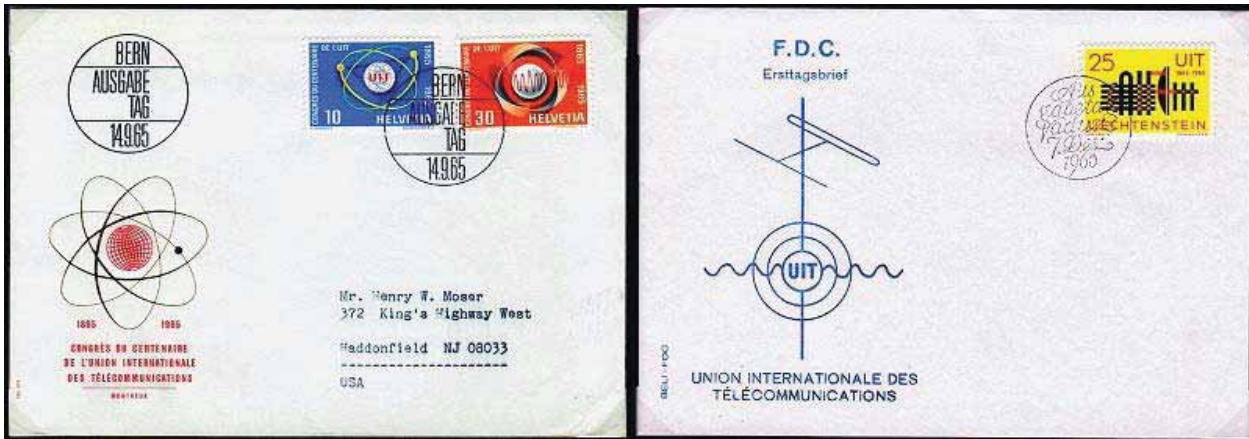


写真4 左:スイス 1965年9月14日発行、右:リヒテンシュタイン 1965年12月7日発行。



写真5 左:オーストリア 1965年5月17日発行、右:ポーランド 1965年5月17日発行。



写真6 左:西ドイツ 1965年5月17日発行、右:東ドイツ 1965年5月17日発行。



### 3. 第1地域・ヨーロッパのITU100年記念切手初日カバー(その他の大型封筒)

洋形7号でも2号でもない大きいサイズの封筒を使った初日カバー(FDC)を、その他に分類しました。ここではモナコですが、12種発行された切手の内の6枚を貼った初日書留実通です。封筒のサイズは106mm x 220mmです(写真7)。



写真7 :モナコ 1965年5月17日発行。

### 4. 大阪狭山市内での行事の記念カバー

ここでまた横道にそれさせていただきます。大阪狭山市では「狭山池築造1400年」を記念した各種行事が行われていますが、「逢喜の郷切手展」と地域の文化際「さやりんフェスティバル」に、「大阪狭山市内の行事」と題して郵趣作品を出展し、アマチュア無線もPRさせていただきました。その風景と、展示に使った無線関係の記念カバーを紹介します(写真8~10)。



写真8 左と中央:逢喜の郷切手展の風景、右:さやりんフェスティバルでの展示風景。



写真9 左:狭山池博物館にコレクションを展示した記念、右:大阪狭山市で8N3STARTを移動運用した記念。



写真10 左:タイのNBTC視察団来訪記念、右:大阪狭山ラジオクラブの8J3SP運用記念。





## JAZAER



\*\*\* 国際電気通信連合 (ITU) の切手 (その7) \*\*\*

JAZAER 荒川泰蔵



### 1. 第1地域・アフリカのITU100年記念切手初日カバー (洋形7号タイプ・92mm x 165mm)

先月号に引き続き、第1地域・アフリカの初日カバーを紹介しましょう(写真1~3)。ここではチャド、モザンビーク、ナイジェリア、セントヘレナ、ケニア・ウガンダ・タンザニアのFDCを示しますが、モザンビークの切手は当時ポルトガル領だった国々が、セントヘレナの切手は当時英領などの国々が、同じ図案で同時に発行しており、一連の切手をオムニバスと呼んでいます。尚、ケニア・ウガンダ・タンザニアの初日カバーは、洋形7号タイプではなく、154mm x 196mmの大型封筒を使っています。



写真1 チャド 1965年5月17日発行、3種の切手を2枚のカバーに分けて貼っている。



写真2 左:モザンビーク 1965年5月17日発行。右:ナイジェリア 1965年8月2日発行。



写真3 左:セントヘレナ 1965年5月17日発行。右:ケニア・ウガンダ・タンザニア 1965年5月17日発行、154 x 196。



2. 第2地域・北アメリカのITU100年記念切手初日カバー(洋形7号タイプ・92mm x 165mm)

第2地域は南北アメリカで、多くの国が切手を発行しましたが、筆者は残念ながら北アメリカの米国と国連本部のFDCLしか手に入れておりませんので、ここではこの2種類のみ紹介します(写真4)。



写真4 左:米国 1965年10月6日発行。 右:国連本部 1965年5月17日発行。

3. 第3地域・アジア及びオセアニアのITU100年記念切手初日カバー(洋形7号タイプ・92mm x 165mm)

第3地域のアジアについてはイスラエル、ラオス、インド、パキスタン、韓国、日本、マレーシア、そしてオセアニアはブルネイのFDCを紹介します。ブルネイの切手は先に紹介したセントヘレナと同じオムニバスの図案ですが、エリザベスIIではなく、ブルネイのサルタン(国王)になっているのが興味深いところです。ブルネイはその後1984年に独立していますが、この時のカバーのカシエはマレーシアと同じ図案であることも興味深いところです。これらの国々のカバーのサイズは、洋形7号に準じていますがサイズがバラバラですので、キャプチャーに実測サイズ(mm)を記しておきます(写真5~8)。



写真5 左:イスラエル 1965年7月21日発行、99 x 174。 右:ラオス 1965年7月15日発行、98 x 165。



写真6 左:インド 1965年5月17日発行、91 x 151。 右:パキスタン 1965年5月17日発行、90 x 165。



写真7 左:韓国 1965年5月17日発行、90 x 163。 右:日本 1965年5月17日発行、94 x 163。



写真8 左:マレーシア 1965年5月17日発行、100 x 175。 右:ブルネイ 1965年5月17日発行、102 x 175。  
(完)

#### 4. SEANETコンベンション 2016 in Pattaya, Thailand

ここでまた横道にそれさせていただきます。今年のSEANETコンベンションはタイのパタヤ(Pattaya)で11月18～21日の4日間にわたり開催されます。詳しくはホームページ <http://www.seanet2016.com/> に紹介されていますが(写真9)、大阪狭山ラオクラブ(OSRC)とシャープ社友会アマチュア無線同好会(JL3YJL)から、数名が参加を予定しており、6月17日(金)の午後にSAYAKAホールで開催する合同ミーティングで、「SEANETの歴史とコンベンション」と題した話を予定しています。お時間の許す方は是非ご参加下さい。当日のスケジュールは現在詰めておりますので、JA3AER宛てお問い合わせ下さい。



写真9 SEANET コンベンション 2016のホームページの一部。